

「鹿嶋神の道」づくり

1 社会資本の概要

「鹿嶋神の道」は、市民がつくる本格的なウォーキングコースであり、鹿嶋市のもつ魅力を最大限に生かして巡り歩くコースです。

鹿嶋市のもつ魅力とは、鹿島神宮を中心に多くの歴史ある神社仏閣が点在、古来より人々をひきつけてきた「神のまち」や、古代から現在に至るまで、数多くの貴重な史跡・文化財がある「豊富な文化財」と、西に北浦、東に鹿島灘に挟まれた鹿島台地が、豊かな植生と景観を生み出している「恵まれた地勢」及び、首都圏（約90km）に近く、成田空港（約40km）にも近いという、国内外からの「好アクセス」です。

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

鹿嶋市に到来した高齢化の波により、まちの商店街は急速に活力を失っていきました。まちに活気を取り戻し、誰もが住みたいと思う魅力あるまちを目指すため、まず市民の有志が、空き店舗を活用した手作り品販売のチャレンジショップ「鹿嶋人ギャラリー」を開きました。次に「鹿嶋人ギャラリー」への集客を図り、かつ市民が“わがまち鹿嶋”の魅力を再認識し、愛着と誇りに思う意識変革につながる事業として、市内の歴史的な文化財や豊かな自然を楽しみながら巡るウォーキング事業（鹿嶋再発見まち歩きツアー）を立ち上げました。そして「鹿嶋神の道」づくりへと発展させました。

「鹿嶋神の道」では、地区住民参加によるコース設定・整備や、イベント時にもボランティアによるおもてなし（お茶、豚汁、焼き芋サービスなど）を実施しています。

また、ルート上の見どころポイントには、歴史的な文化財、自然景観の説明が記載された鳥居型の案内板や破魔矢型の道しるべが設置されており、外国人来訪に備え、案内板は日英中韓の4カ国語、道しるべは日英の2カ国語で表記しています。



鹿嶋神宮前の商店街にオープンした手作り品の
チャレンジショップ「鹿嶋人ギャラリー」



「鹿嶋神の道」オープン当日は、
市内外から約350名がウォーキングに訪れた



鳥居型の日英中韓4カ国語の案内板（左）と日英2カ国語の破魔矢の道しるべ（右）



イベント時は地区住民のボランティアによる
豚汁やスープなどでおもてなし



茨城県 鹿嶋市

鹿嶋神の道運営委員会／鹿嶋市

3 活動の成果や波及効果等

鹿嶋神の道ルート1のオープンから約3年、市内外から1万人ほどのウォーカーが訪れ、「鹿嶋の歴史と伝統」「豊かな自然」を高く評価する声や、アンケート調査では「鹿嶋の奥の深さに驚き」「鹿嶋に生まれ育ちながら再発見に感謝」「コース整備が素晴らしい」などの意見が寄せられました。これらの声は地区住民に「わがまち鹿嶋」の価値を再認識させることになり、郷土愛を高めています。

鹿嶋人ギャラリーの出店から8年目、まち歩きツアーなどで商店街に活力が蘇りつつあり、神宮参道の空き店舗が5店再開しました。

また、若手商店主らの結束を高め、「鹿嶋神宮」「鹿嶋アントラーズ」「鹿嶋神の道」がコラボして、市外からの来訪者へのおもてなし、特産品開発などを行い、商店街活性化への大きな刺激となっています。



鹿嶋産のモチ米、古代米を使用した揚げおかき（左）や無農薬米を使用した純米原酒（中）などのグッズには「鹿嶋神の道」のロゴマーク（右）を使用し、「鹿嶋神の道」のブランド化を図っています

喜びの声



受賞者

鹿嶋神の道運営委員会 代表 西岡 邦彦

コメント

鹿嶋市の埋もれた宝（文化財、自然）に日が当たった賞と喜んでいます。この賞をキッカゲに市民にはわがまちの宝に自信と誇りをもって慈しんでもらい、首都圏や海外からのウォーカーにも歩いてもらえるように努力してまいります。

活動内容

コースの整備・拡充
ガイド案内、広報活動、特産品づくりなど

活動の経緯

平成22年 「鹿嶋再発見まち歩きツアー」開始
平成23年 「鹿嶋神の道運営委員会」設立
平成24年 「鹿嶋神の道ルート1」オープン
平成25年 「新・日本歩く道紀行100選：文化の道」認定
平成28年 「鹿嶋神の道ルート2」オープン
平成29年5月21日 「鹿嶋神の道ルート3」オープン

手づくり郷土賞

グランプリ2016

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

茨城県鹿嶋市中部地域

活動主体及び連絡先

鹿嶋神の道運営委員会 (0299-77-8878)

HP: <http://www.god-road.com/>

対象となる社会資本

鹿嶋神の道 ※管理者：鹿嶋市

